

2025年9月19日

**欧州子会社 Nippon Gases、新たな CO₂精製工場をドイツ・Zörbig に開設
～再生可能資源由来の CO₂を活用し、食品・モビリティ・農業分野の脱炭素化を推進～**

日本酸素ホールディングス株式会社（本社：東京都品川区、社長 CEO：濱田敏彦）の欧州事業会社である Nippon Gases Euro-Holding S.L.U.（本社：スペイン、マドリッド 会長・社長：ラウール・ジュディチ）は、ドイツのザクセン＝アンハルト州 Zörbig において、Nippon Gases Germany の最先端の炭酸ガス(CO₂)精製工場を新設し、2025 年 9 月 10 日に開所式を執り行いました。本プロジェクトには約 3,000 万ユーロ（約 51 億円*）を投資しており、ザクセン＝アンハルト州経済省から 370 万ユーロの補助金支援を受けています。

*1 ユーロ＝170 円で換算



Zörbig の新工場

新工場では、Verbio SE 社が隣接地で製造するトウモロコシや穀物由来のバイオエタノールの副産物として発生する CO₂を原料とし、食品グレードの液化炭酸ガスおよびドライアイスを製造します。これにより、従来の化石燃料を用いた CO₂生産に依存しない、持続可能な生産体制を実現しました。

また、CO₂の発生源から精製・ドライアイス製造までを一拠点で完結させることで、年間最大 38 万 km 分のトラック輸送を削減し、約 330 トンの CO₂排出削減にも貢献します。

本工場で生産される CO₂およびドライアイスは、炭酸飲料やビール、冷凍食品の製造・輸送、さらには化学・半導体産業など、幅広い分野で活用されます。

バイオエタノール由来の CO₂を活用した今回のプロジェクトは、食品・モビリティ・農業分野の脱炭素化に向けた重要な一歩であり、日本酸素ホールディングスグループ全体でカーボンニュートラルの実現に向け、今後も生産・サプライチェーン全体の脱炭素化に取り組んでまいります。

以上



9月10日の開所式にはザクセン=アンハルト州経済・観光・農林省のステファニー・ベツチュ(Stefanie Pöttsch)次官(中央)、在ドイツ日本国大使館の志野光子特命全権大使(中央左)、Nippon Gasesのクリストフ・ラウメン(Christoph Laumen)ヨーロッパ中東部副社長(中央右)が出席

日本酸素ホールディングスグループは、日本、米国、欧州、アジア・オセアニアの4つの地域で30超の国と地域をカバーする世界第4位の産業ガス、電子ガス、医療用ガスのサプライヤーです。また、サーモス事業では、世界120カ国以上にTHERMOSブランド製品を供給しています。1910年に日本酸素合資会社として設立されて以来、当社グループは、革新的なガスソリューションを通じて社会的価値を創造し、産業の生産性を高め、人々の豊かで健康な暮らしとより持続可能な未来に貢献することを使命としています。19,000名以上の従業員を擁する私たちは、"The Gas Professionals"として、“進取と共創。ガスで未来を拓く。”という同じ目標を掲げています。

お問い合わせ先

日本酸素ホールディングス株式会社

広報部 03-5788-8513